

2020年1月10日

苫小牧市長

岩倉 博文 殿

米軍オスプレイの飛行中止を求める要請書

米軍戦闘機の訓練移転反対苫小牧実行委員会

委員長 横山 傑

【公印省略】

貴職が日頃苫小牧市民の安全と福祉の増進、地域経済の発展をめざして取り組んでいることに敬意を表します。

さて、昨年12月12日、防衛省は陸上自衛隊北部方面隊と在沖縄米海兵隊が北海道で行う日米共同訓練「ノーザンバイパー」の概要を発表しました。それによれば訓練は今年1月22日から2月8日にかけて、国内での米海兵隊との共同訓練としては過去最大の計約4100人が参加し、航空自衛隊千歳基地を補給拠点として北海道大演習場と矢臼別演習場で行われるということでした。

私たちが危惧するのは、この訓練に米軍普天間飛行場から移動してきた米軍の新型輸送機MV22 オスプレイが2機参加することです。道内でのオスプレイの訓練は2017年8月以来で2回目とされています。2018年は9月10日から予定されていた訓練が9月6日に発生した胆振東部地震により中止されましたが、2017年にはオスプレイが苫小牧と恵庭上空に飛来しており、今回の訓練でも市に事前に情報が伝えられていない状態でオスプレイが苫小牧市上空を飛行する懸念があります。

私たちは沖縄県民の負担軽減に事実としてまったくつながっていない米軍の訓練移転自体に反対しています。まして、オスプレイを巡っては墜落事故や緊急着陸などのトラブルが相次いでおり、日本国民が納得できる形での事故原因の究明も事故防止対策の説明も全くなされていません。このように危険なオスプレイによる苫小牧市上空の飛行は認められるものではありません。加えて、事前に飛行日時や飛行ルートの説明が苫小牧市にもない中で、住民が生活する場の上空を我が物顔に米軍のオスプレイが飛行することは、絶対に許されることはありません。

そこで、苫小牧市民の安全の確保に日夜心を砕かれている貴職に対して、下記の項目につき要請いたしますので、真摯にご検討の上、1月17日までにご回答を下さるようお願いいたします。

記

1. 「ノーザンバイパー」が昨年度は中止になったにもかかわらず、どのような経緯で米軍所属のオスプレイが苫小牧市上空を飛行することになったのか、防衛施設局に対しあらためて説明を求めること。
2. 今年度の「ノーザンバイパー」の実施に当たり、米軍所属のオスプレイおよびその他米軍機の苫小牧上空の飛行予定が本当はないのか防衛施設局に確認を求め、その内容をすみやかに苫小牧市民に公表すること。
3. 米軍所属のオスプレイの飛行予定がある場合は、ただちにその中止を関係機関に対し申し入れること。
4. 飛行予定がないもしくは明らかにされない中で、オスプレイの飛行が市民などにより目撃された場合は、市としてその事実の把握・確認に努め、明確になり次第すみやかに市民に公表するとともに、米軍および関係機関に対し強く抗議を行うこと。
5. 米軍との訓練に関連し事故・犯罪等が発生した場合、直ちに市民に公表し、対策・対応を速やかに行うこと。

以上

